

21世紀を生きるきみたちの環境学習

—環境学習プログラム 幼児～小学校低学年編—

はじめに —環境学習推進のために—

地球温暖化やオゾン層の破壊等、地球規模での環境問題の解決は21世紀における人類の大きな課題となっています。こうした問題を解決し、持続可能な社会を実現するには、現在の社会経済システムや私たちのライフスタイルを環境にやさしいものへと変えていく必要があります。そのための環境教育・環境学習の推進は、その重要度が益々高くなってきました。

私たちが住む島根県は、海と山に囲まれ、緑豊かな山々からもたらされる清らかな水や心地よい大気に包まれ、四季が織りなす豊かな環境に恵まれています。この島根の環境を、次の世代に引き継ぐことが、私たちの願いであり、また責務であると言えます。

こうした認識の下に、環境に関する学習活動が県内隅々に広がるように、指導教材として環境学習プログラムを作成することとしました。これは昨年度作成した「小学校中学年～高学年編」に引き続き、地域貢献特別支援事業として島根県と島根大学が協力して作成したものです。

この学習プログラムは、幼児から小学校低学年を対象とし、「遊び」を通した体験的活動を中心に環境について「学ぶ」ことを重視しています。また個々のプログラムはそれぞれで学習が完結するようにしていますが、同時に「山」、「平地」、「水辺」などのカテゴリーごとに系統的な学習ができるようにも配慮しています。

本プログラムが幼稚園や学校のみならず、地域や家庭などにおいて広く活用され、21世紀を担う島根の子ども達が、環境問題に対する関心を深め、循環型社会の構築主体として成長することを期待しています。

なお、本プログラムの作成ためにご尽力賜りました委員の方々をはじめ、写真や資料の提供などご協力をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

島根県環境学習プログラム(幼児～小学校低学年編)のねらい

I 地球環境問題と私たち

「地球とその環境」に、人類の目が今日ほど注がれている時代は、いまだかつてなかったのではないのでしょうか。人間と自然との関係がクローズアップされてきた背景の一つには地球環境問題、資源・エネルギー問題の悪化があります。

人間社会の活発な経済活動は資源・エネルギー消費量の指数関数的増加をもたらし、将来的には資源・エネルギーの枯渇という事態になりかねない状況が出現してきています。また、その一方では、地球の温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、土壤汚染、森林破壊、環境ホルモンなどで代表される地球環境問題が生じてきています。この資源・エネルギー問題と環境問題は裏腹の関係にあり、環境問題間にも相互に密接なつながりが存在しています。

1970年代までの環境教育は主として公害問題を中心として進められてきました。公害問題では、環境汚染源としての企業や行政のあり方が問題とされてきました。しかし、生活廃水による汚濁やごみの大量廃棄、自動車の排気ガスによる大気汚染などは、私たち一人一人の生活に深く根づいている環境問題であり、企業や行政だけの責任としては解決することができません。そこには、一人一人の生活スタイルが環境問題の原因となるとともに、さらにその影響を自分たちが被るという関係が存在しています。つまり環境問題においては、一人一人が加害者であると同時に被害者であるという関係が成立していることとなります。私たち人類がこのまま、大量生産、大量消費、大量廃棄型の経済活動やライフスタイルを続けると地球環境に取り返しのつかない影響を及ぼしてしまうのは明白なことなのです。このような今日的環境問題を解決するのには、社会を構成している全ての人々や集団の意識や考え方、行動に変革をもたらす必要があります。

アメリカの先住民族であるインディアンのある部族では、「地球は未来の子どもたちからの預かり物」と考えています。初めて地球の周りを回った宇宙飛行士たちは、私たちの住む地球を「宇宙に浮かぶ青い真珠のようだ。」と表現しました。この美しくかけがえのない地球を未来に生きる子どもたちへと引き継いでいくことが、現在を生きる私たちの責任ではないのでしょうか。「持続可能な社会の実現」に向けて世界中の人たちが手に手を取り合って進むときが来ているのです。

Ⅱ 環境教育のねらい

環境教育の目的を明確にしたのは、1975年の国際環境教育会議で採択されたベオグラード憲章です。その後も数多くの国際会議が重ねられ、環境教育についての理解が深められてきました。その結果、環境教育の目的は「持続可能な社会」を担い得る主体者の育成にあるということに集約されてきました。即ち、環境教育の目的は、地球環境についての理解とその保全に必要な知識、態度、価値観、技能を身につけ、問題解決能力を育成するとともに、地域、国、世界等のさまざまなレベルで生じる「環境と開発」にかかわる意思決定過程に積極的に参加できる人間の育成をめざしているといえます。

具体的には、個人及び社会集団の目標として、次の6項目にまとめることができます。

- ①関心：環境とそれにかかわる問題に対する関心と感受性を身に付ける。
- ②知識：環境とそれにかかわる問題についての多様な経験や理解及び人間の環境に対する責任や使命についての基本的な理解を身に付ける。
- ③態度：社会や自然などの環境に対する価値観を見直し、その保護と改善につながるライフスタイルを身に付ける。
- ④技能：環境問題の明確化と解決に必要な技能を身に付ける。
- ⑤評価：環境状況の測定や教育プログラムを生態学的・政治的・経済的・社会的・その他の教育的見地にたって評価できる。
- ⑥参加：環境問題の解決に向けたあらゆるレベルでの活動に、積極的に参加する。

Ⅲ 発達段階を考慮した環境学習の推進

環境学習が、発達段階に即して体系的に行うことができるように小学校までのところにおいて、①幼児から小学校低学年程度、②小学校中学年程度、③小学校高学年程度の3段階にわけ、環境学習プログラムを提案しています。以下、それぞれの段階のプログラムのねらいについて説明します。また、特に本書の対象である幼児から小学校低学年についてのプログラムについては、後に詳しく述べます。

①幼児から小学校低学年を対象としたプログラム

身のまわりの環境とふれあい、豊かな感性を養うこと
環境や人に対して大切に思う心を育てること

自然や身の回りの環境に対する感性や興味・関心を高めるとともに、自然のすばらしさや生命の大切さを感得できるよう配慮します。この時期は、五感を活用した環境とのふれあい体験等を通じて環境に対する感性や環境を大切に思う気持ちを育てることが大切です。全身の感覚をとぎすませて自然の美しさや不思議さ、心地よさを感じることは、環境学習の第一歩です。

②小学校中学年を主に対象としたプログラム

身の回りの環境にふれあうこと

身近な環境から問題を見出すこと

見出した問題を追求すること

児童が自分と身の回りの環境とのかかわり、人とのとのかかわりなどに目を向けていく段階です。この時期の児童は、生き物を育てたり、魚や虫を捕まえたり、夜空の星に感動したりと自然への興味関心を高め、想像豊かに自然に浸ったりできるようになってきます。また、社会的な事象にも関心が向いてきます。いろいろなものを比べて、同じこと、似ていること、違うことを見つけることができるようになります。少しずつ客観的にもものを見たり、友達と相談して調べたりできるようになります。この時期に自然や社会についての豊かな体験活動を行い、追求の仕方を学んでいくことが大切です。

③小学校高学年を主に対象としたプログラム

自然のしくみやつながりについて考えること

いろいろな体験をしたり、情報を集めたりして多面的に考えること

身近な問題を自分の問題としてとらえ、行動すること

この時期の児童は、体験を通して人間と環境のかかわり方についていろいろな立場があることを理解したり、収集した情報をもとに判断したり推理したりすることもできるようになります。また、批判的なものの見方ができるようになってきます。この時期は、単なる現状批判に終わることなく、自分たちに何ができるか、地域や社会にどんな提案ができるかなど、環境を大切に思う心とともに行動力を育てることが大切です。

Ⅳ 幼児・児童を対象とした環境教育のねらいと進め方

幼年期は生涯の中で環境教育の基盤を形成する大切な時期にあたります。環境教育の基盤は、自分自身を取り巻くすべての環境事象（自然・社会・文化）に対する興味・関心（センス オブ ワンダー）や愛着心を育てることにより形成されていくのです。それを培うには、写真や活字を通して学ぶだけでは不十分です。実際のフィールドに出て、五感をフルに活用し、対象に心ゆくまで浸りきる体験とそこから生じるその子なりの追究活動を保障していくことが求められます。その体験と追究によって培われた環境に対する鋭く豊かな感性と愛情の上に、環境についての基礎的理解や技能を獲得し、地球環境を保全し、「持続可能な社会」の主体者として活動できる資質能力の基礎を養うことが求められているのです。

島根県環境学習プログラム—幼児～小学校低学年編—は、以上述べてきた環境教育についての考え方にに基づき作成します。具体的には、以下に示すような育成したい能力・態度を考え、それを達成するために効果的な内容構成の視点を用いました。

1. 育成したい能力・態度

①環境に対する豊かな感性の育成

- 親しみ、愛着を持って対象と心ゆくまで浸りきる
- 興味関心を懷き、対象と一体となり追究できる
- 環境に対して感じたり、気づいたりしたことを、言葉や絵、身体で表現できる。

自分自身を取り巻くすべての環境事象に対する興味・関心や愛着を育てることが出発点となります。感性を育てるとは「対象を認めて動く心」を育てると言い換えることができます。人に対して感じる心、ものや自然に対して感じる心、自分自身に対して感じる心がなければ理解し、判断し、行動しようという気持ちは生じてきません。知情意の発達のすべてにかかわって、それを育て支えるものが感性なのです。別の言い方をすれば、認識や価値観を含んだ総合的な能力とでもいえるでしょう。

②環境に対する判断力・行動力（基本的生活習慣や技能）の基礎の育成

- 生命を感じ大切にする態度
- 3R（Reduce, Reuse, Recycle）精神の涵養
- 分別、整理、後片付け、元に返す、の習慣化

環境とかかわる活動の中で必要とされる基本的な生活習慣や技能の習得を図ることが幼児期～小学校低学年にとっては大切な時期といえるでしょう。

2. 内容構成の視点

- ①自然環境（平地、水辺、山）と社会・文化的環境（家、町・村）からのアプローチ
- ②地球システムの構成要素（大地、水、大気、動植物・人間、太陽）と子どものかかわりを基軸とした構成
- ③季節などの時間的変化を絡ませた構成
- ④本県独自の自然環境や文化環境を学べるプログラム構成

プログラムの特徴

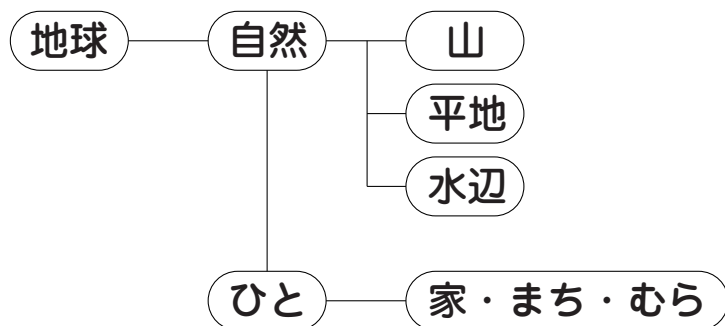
本学習プログラムは、学校、園、家庭、および地域活動で利用できるように自由度を考慮して、次のような特徴を持たせてあります。また、指導者がそれぞれの立場や対象とする子ども達の年齢構成、人数および活動に使える時間を考慮し柔軟に本プログラムを活用できるように構成しています。加えて、幼稚園と小学校低学年とを連続したものとして捉えるなど、新しい試みを提案しました。また、場合によっては小学校中学年～高学年用のプログラムと併用してお使い頂ける構成にしています。

環境学習を学ぶ場所（カテゴリー）の設定

本プログラムは、私たちの生活の舞台である「地球」を大きなカテゴリーとして、最終的には子ども達が身の回りの問題から地球全体の環境問題へと視野が向くことを念頭においています。そこで、子ども達が「環境」を学ぶ立場として、幼児～小学校低学年の子ども達向けには大きく「自然」と「ひと」の2つに分け、さらに「山」「平地」「水辺」「家・まち・むら」という場所（カテゴリー）にまとめました。

また、「自然」と「ひと」という2つの視野にたつことにより「自然環境」と「社会・文化的環境」の両面から「地球（環境）」へアプローチできるようにしてあります。

また、地球を「システム」としてとらえることで、地球環境全体を理解することができますが、指導者用の参考として概念図の一部に付け加えておきました。



発達段階を考慮に入れた体験・考察型のプログラム

本プログラムは、子ども達がそれぞれの発達段階（年齢・学年）において、「遊び」を中心とした体験的活動を中心に、そこから得られる自然環境や社会問題について「学ぶ」ための基礎を重要視したプログラム構成にしています。これは、子ども達が小学校中学年～高学年へと成長していく中で、問題発見および解決能力を身につけていくための基礎を、幼児～小学校低学年の時期に備えておく必要があるからです。

なお、本書では、幼児～小学校低学年程度を対象としておりますが、これはあくまでも目安であって、指導者の判断で柔軟に扱ってください。

系統的な学習にもテーマを絞った学習にも対応できるプログラム

本プログラムは、教科や領域の枠を越えて構成されており、個々のプログラムが扱う題材は、それと関連した分野への発展を行いやすいようにしています。

基本的には、それぞれのカテゴリー（山、水辺、平地、家・まち・むら）ごとの順序だった「系統的」な学習を行うように構成してありますが、ねらいに応じて各プログラムを組み合わせることにより「テーマを絞った」学習を行うことを可能にしています。また、全てのプログラムは単独でも学習が完結するようにしています。

子ども達向けのプログラム構成

幼年期～小学校低学年を対象とした本プログラムでは、本書が子ども達の目に触れることを想定して構成してあります。多くの場合、イラストを多用し、子ども達の興味・関心を引き付けやすくしてありますが、幼年期の子ども達には、難しく感じる部分も出てきますので、指導者から子ども達への状況に応じた指示や解説を御願いたします。

また、資料はワークを行うにあたって、子ども達および指導者の理解を促すものを取り上げました。子ども達の到達度に応じて、図鑑や他の資料と合わせることで一層の効果が期待できます。ワークシートの用意されているものについては人数分印刷・コピーしてお使いください。

21世紀を生きるきみたちの環境学習

—環境学習プログラム 幼児～小学校低学年編—

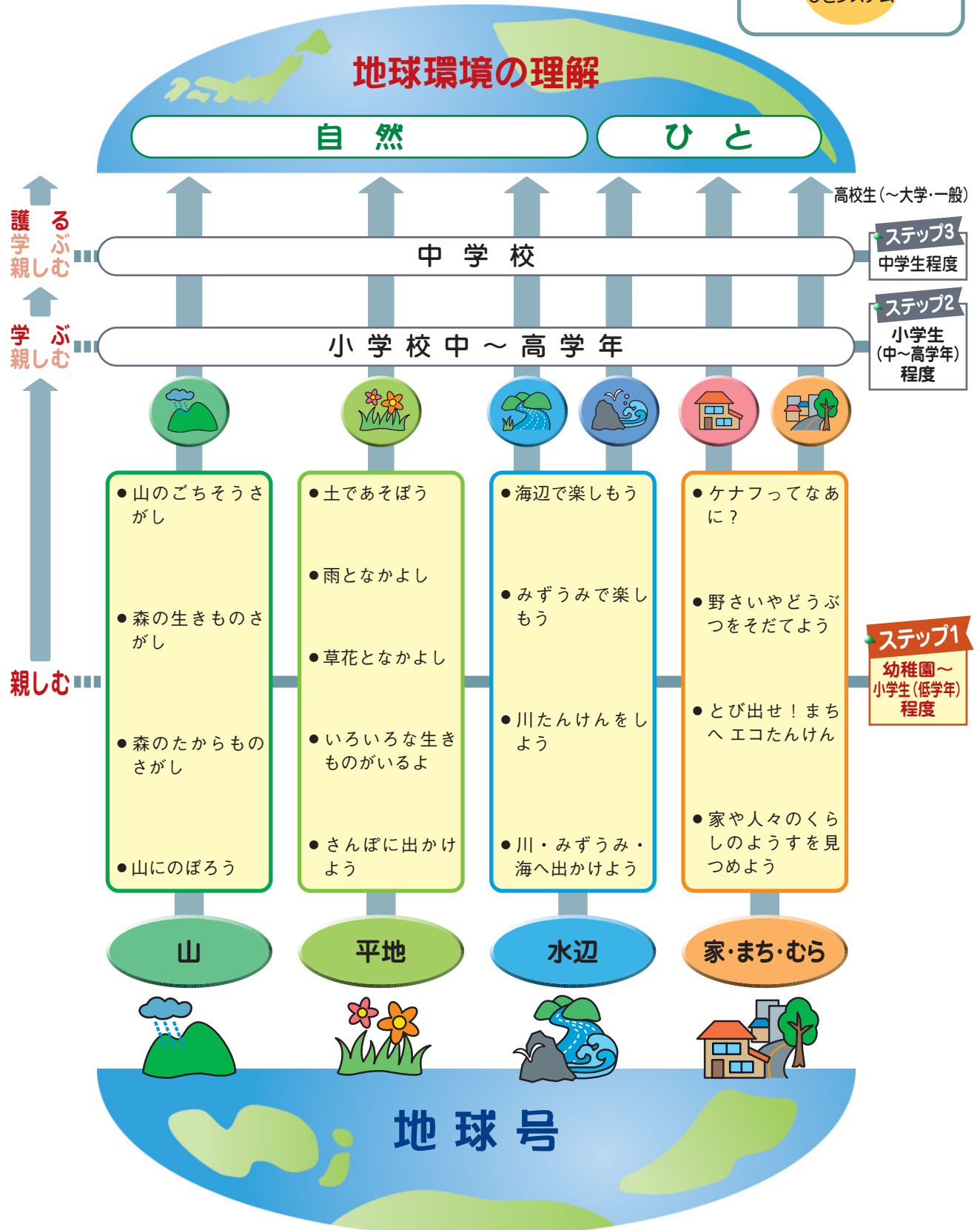
システムとしての理解

〈全地球システム〉

生物
システム

大地・空・水
システム

ひとシステム



ワークー覧

山であそぶ

山にのぼろう
森のたからものさがし
森の生きものさがし
山のごちそうさがし

水辺であそぶ

川・みずうみ・海へ出かけよう
川たんけんをしよう
みずうみで楽しもう
海辺で楽しもう

平地であそぶ

さんぽに出かけよう
いろいろな生きものがいるよ
草花となかよし
雨となかよし
土であそぼう

家、まち・むらでくらす

家や人々のくらしのようすを見つめよう
どび出せ！まちへ エコたんけん
野さいやどうぶつをそだてよう
ケナフってなあに？